

熱海新聞

平成29年(2017年)10月13日 (金曜日) 日刊

(1) 第25132号 (昭和29年6月19日第3種郵便物認可)

熱海

現代語で「熱海海岸の場」

宗片さん 金色夜叉題材に新作能



新作能「貫一・お宮」の謡を披露する宗片さん＝市いきいきプラザ

を代表する熱海発の金・熱海日語

うになってほしい」といった声が上がった。同会会長の鈴木徳治さん(90)が市内にある金色夜叉と尾崎紅葉ゆかりの地を紹介した。

熱海市桃山町に住む静岡大名塾教授の宗片(上田)邦義さん(82)は、尾崎紅葉の小説「金色夜叉」を題材に新作能「貫一・お宮」を完成させ、11日、市いきいきプラザで開かれた「伊豆の日金・熱海を語る会」の定例会で発表された。熱海海岸での別れのシーンなどを現代語の分かりやすい詞章でまとめた作品で、「来年は紅葉生誕150年。その記念に熱海市

熱海海岸の場面を前場にし、物語を現代語で分かりやすく紹介する「間語り」を挟んで後場をまとめた。最後は宮のことを許した貫一が夢の中で一緒にあゝの世に落ちていくというシーンで「紅葉が早世し未完に終わったが、紅葉だったからこそ、会員からは「熱海や各地で上演されるよ

内外で公演されたい」と期待を語った。宗片さんはシエークスレア作品などを題材にした新作能を手掛けた。数年前から熱海にゆかりの作品を作

望が寄せられていたこともあり、熱海の名を全国に広めた「金色夜叉」を題材にした「貫一・お宮」のモニュメントから受けるイメージを一新させたいという思いもあったと話す。

『熱海新聞』2017年10月13日記事より